

2012年9月15日

各位

積水ハウス株式会社

**東海3県初 3電池搭載のスマートハウスを軸とする
「防災と電力不足に対応するスマートタウン」を愛知、三重、岐阜で展開開始**

積水ハウス株式会社（本社：大阪市北区、社長：阿部 俊則）は、東海3県で初めてとなる、太陽電池・燃料電池・蓄電池の3電池とHEMS[※]を搭載したスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」を軸とする「防災と電力不足に対応するスマートタウン」の分譲を愛知県で開始し、三重県、岐阜県内にも順次展開します。

※Home Energy Management System。経済産業省「エネルギー管理システム導入促進補助金」で補助対象に採択。

まち全体の約2割を3電池搭載のスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」とすることで、停電時にも電力のある安全・安心な暮らしが実現でき、災害時のまちの防災拠点にもなり、まち全体の防災性能を高めます。

さらに、太陽光発電システムと燃料電池によるダブル発電でまち全体の使用電力量を上回る電力を発電することで「まち全体が発電所」となります。断熱性能の高い住宅で節電しながら、近隣の住宅に電気を供給することによって電力不足の解消にも貢献します。

10月20日の愛知県での「スマートコモンライフ天白平針」（名古屋市天白区）の分譲開始を皮切りに、「スマートコモンライフ松阪」（三重県松阪市）、「スマートコモンライフ伊賀」（三重県伊賀市）で電力不足の解消に貢献し、災害時には安全・安心な暮らしが継続できるスマートタウンの開発、分譲を進めてまいります。岐阜県内においても3団地、50区画以上の規模で計画が進行中です。

■ 東海3県における積水ハウスのスマートタウン計画の概要

分譲地名	所在地	区画数	スマートハウス「グリーンファーストハイブリッド」棟数	分譲開始予定
【愛知県】				
スマートコモンライフ 天白平針 ^{ひらぼり}	名古屋市 天白区天白町	34区画	6棟	2012年 10月20日
【三重県】				
スマートコモンライフ松阪	松阪市川井町	13区画	3棟	2013年1月上旬
スマートコモンライフ伊賀	伊賀市上野農人町	10区画	2棟	2013年1月下旬
【岐阜県】				
3団地、50区画以上の規模で計画が進行中				

当社は、3電池（太陽電池・燃料電池・蓄電池）を搭載したスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」を軸とし、「安全・安心」「健康・快適」「エネルギー」「見守り」など4つのキーワードで「SLOW & SMART」な豊かな暮らしの実現を目指す独自のスマートタウン「スマートコモンシティ」を全国で展開しています。

今後もスマートハウス、スマートタウンの先進企業として、環境に配慮しながらエネルギーの自立を図り、安心して豊かな暮らしを実現する持続可能なまちづくりを全国各地で進めてまいります。

■ 積水ハウス独自のスマートタウン「スマートコモンシティ」とは

2011年3月に発生した東日本大震災に伴う深刻な電力不足を受け、人々のエネルギーへの問題意識や再生可能エネルギーへの関心、エネルギーの自立やコミュニティの再生をテーマとしたスマートハウス、スマートタウンへの期待が高まりました。

これらを受け、まち全体の約2割を3電池搭載のスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」とし、「安全・安心」「健康・快適」「エネルギー」「見守り」など4つのキーワードで、「SLOW & SMART」な豊かな暮らしの実現を目指す当社独自のスマートタウンが「スマートコモンシティ」です。

まち全体で省エネ・創エネに取り組み、電気とガスのエネルギーミックスで大幅な節電を実現しつつ、災害時や停電時にも普段とほとんど変わらない生活ができる3電池システムや制震システム「シーカス」などを備えた住宅による災害に強いまちづくり、そして、これまでの実績を踏まえた住民とともにコミュニティを育むまちづくりを進めています。

「スマートコモンシティ明石台」（宮城県富谷町）、「スマートコモンステージけやき平」（茨城県古河市）、「スマートコモンシティちはら台」（千葉県市原市）、「スマートコモンステージめいわひかりが丘」（千葉県四街道市）、「スマートコモンステージ瀬谷」（神奈川県横浜市）、「スマートコモンライブ甲府富士見」（山梨県甲府市）、「スマートコモンシティ林町」（香川県高松市）、「照葉スマートタウン」（福岡県福岡市）など全国各地で計画が進行中で、既に新しい暮らしが始まっています。





1
安全
安心

制震システム「シーカス」の標準装備で地震、災害に強い住宅を実現。
鉄骨住宅には、積水ハウスが独自に開発した制震システム「シーカス(国土交通大臣認定)」を標準装備。災害、地震に強い住宅を実現します。震度7クラスの大地震を想定して開発された「シーカス」は、地震エネルギーを熱エネルギーに変換、建物の変形を約2分の1に低減します。



2
健康
快適

健康で快適な暮らしの実現を追求し、研究開発、普及に取り組んでいます。
化学物質軽減を追求した「エアキス仕様」、住まいの内と外を中間領域でつなぐことで快適性を追求する「スローリビング」、空間の美観性と心地よさを追求する「スマートユニバーサルデザイン」を採用しています。



3
エネルギー

「グリーンファースト」の推進でエネルギー問題に対応します。
次世代省エネ基準をクリアする高断熱・高気密住宅で省エネを推進。太陽光発電システム、燃料電池、蓄電池を積極的に採用します。今後も、自然エネルギーを活用するシステムを標準搭載した「グリーンファースト」を積極的に推進します。



4
見守り

住民とともに豊かなコミュニティの育まれるまちづくりに取り組んでいます。
住人同士のつながりは、豊かで楽しい暮らしと同時に安心して住み継がれるまちづくりに欠かせない要素です。積水ハウスでは、地域コミュニティを「ひとえん」と称し、豊かなコミュニケーションづくりのお手伝いをしています。

「グリーンファースト ハイブリッド」とは

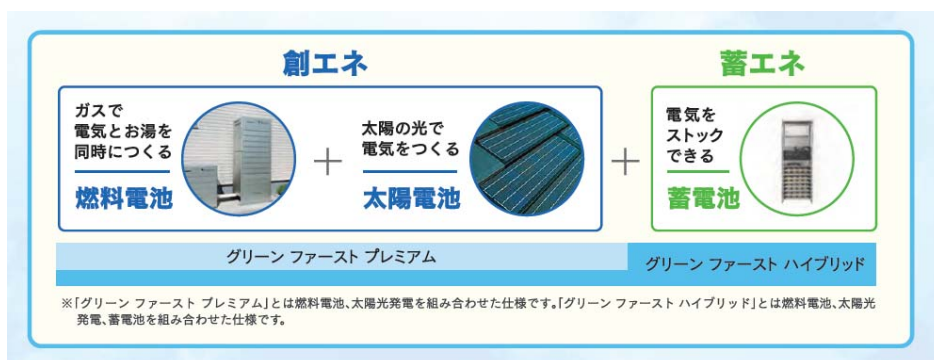
Green First HYBRID



「グリーンファースト ハイブリッド」は、快適に暮らしながら大幅な節電を可能にし、日中は“街の発電所”として社会に貢献する太陽電池・燃料電池・蓄電池の3電池とHEMSを搭載したスマートハウスです。2011年8月に発売。(財)新エネルギー財団が主催する平成23年度「新エネ大賞」最上位の“経済産業大臣賞”を受賞するなど、大きな注目を集めています。

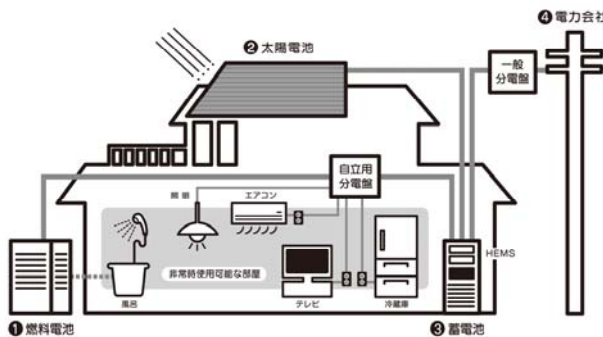
■ 太陽電池、燃料電池、蓄電池の3電池を組み合わせた世界初の電力供給システム

太陽電池、燃料電池、蓄電池を組み合わせることで、安定的な電力を供給します。3電池の制御はHEMSで行ない、自動切り替えで非常時でも住宅設計時に予め設定したコンセントや照明などがそのまま使えます。



電力使用の優先順位は、(1)燃料電池、(2)太陽電池、(3)蓄電池、(4)商用電力(電力会社から購入)の順番となっています。通常時は太陽電池発電分の余剰電力を売電することが可能です。

「グリーンファーストハイブリッド」の電力供給システム



■ 日常は快適に暮らしながら光熱費を削減し、日中は“街の発電所”に

家庭の電力消費のピークは朝と夕方から夜にかけてです。これに対し日中の電力消費は、出来る限り燃料電池の発電で賄い、太陽電池の発電の売電量を増やします。電力消費の多い夕方から夜は、太陽電池は発電しないため、蓄電池からの電力供給で購入電力を減らします。これによりピーク時間帯の購入電力を大幅に抑えられます。蓄電池には、電力会社の電力供給に余裕があり電力が安価な深夜に充電し、光熱費を削減します。

■ 非常時も自動的に電力供給システムが稼働し、安定した電力を継続供給

停電時には、自動的に3電池による電力供給システムに切り替わります。住宅設計時に予め設定したコンセントや照明などではプラグを差し替えることなく、そのまま電気を使用できます。停電時にも電力供給の優先順位は同じですが、太陽電池の発電の余剰分は蓄電します。太陽電池と蓄電池の組み合わせでは、曇天日が続くとう充電できないため、電力供給ができない場合もありますが、燃料電池を組み合わせることで、天候に左右されずに電力とお湯の供給が可能になり、入浴もできます。そして、創エネ+蓄エネで電気のある安心の暮らしを継続できます。